

「メッセージパネルに込めた思い」

思考回路に回生ごとにプレートを作成する趣旨は、各回生が、どの様な夢や希望を持って学生生活の3年間を過ごしてきたのかを、後輩達に、或は、附設に学ぼうとする人たちに、伝えることにあると考えました。

私達が、入学した当時（昭和27年・1952年）の附設は、設備面では、ないない尽くしの学校でした。私たちの入学で、全学年が揃いました。

校舎は、兵舎跡の馬小屋の改装したもの。勿論、講堂も、体育館などもなし。体育は、大学のグラウンドを借りて、運動具がないので、ボール一つで出来るラグビー。選択科目は、ピアノがないので、美術のみ。このような有様でした。

しかし、「国を担う人になれ」（板垣初代校長）の建学精神の下、主要科目は充実していました。現代文は、世良先生。古文は熊懷先生。漢文は、大石先生。解析Ⅰは、井上（敏）先生。幾何と物理は、後に九大で教えられる木戸先生。英語は、檜崎先生、半田先生、井上先生さらに、久留米大学から広瀬・上田の両教授。生物は、久留米大学から、江口教授。ドイツ語（ちなみに、当時、必須）は、久留米大学の久野教授、など、旧制の高等学校のような授業でした。

私たちが過ごした3年間は、大学進学希望と共に、その後の進路を模索していた時期でもありました。戦争により、資産や資源の喪失だけでなく、あらゆる分野で有為な人材もまた、失っての新生日本の再出発ただけに、いろんな分野で、人材が求められる時期でもありました。

それに応えるように、3回生は、多様な人材を輩出しました。医者・学者・弁護士・実業家・教師・画家・翻訳家・マスコミ等々。このことは将に、多様性に富んだ、学生生活の賜物だとおもい私たちは、「多様性に富んだ青春」をプレートの文言にすることにしました。

この文言を具現化する図柄を、同じ回生の石川君に、描いてもらうことにしました。
（文責・3回生 野田隆昭）